

NTT is

株主通信

2017 12 (December)

NTT
NIPPON TELEGRAPH AND TELEPHONE
CORPORATION



証券コード: 9432

NTT IS

[エヌティティ イズ]

株主通信 2017

12

December

早わかり INDEX

Top Message

新たな価値創造をめざして
B2B2Xモデルへの取り組みを
進めていきます

代表取締役社長
鵜浦 博夫



P.02

特集 1

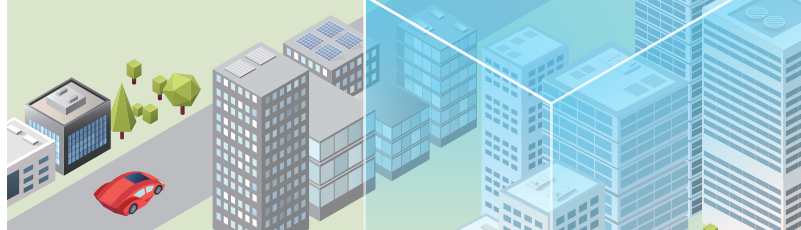
NTTグループのR&D

R&DによるB2B2Xの価値創造

P.03

見えるNTT

R&Dが支える新たな価値創出
NTTグループの研究開発が2020とその先の社会に貢献する
新たな利用シーンを「見える化」します。



P.07

特集 2

なるほどNTT

NTTグループの社会・環境への取り組み
事業領域をグローバル、B2B2Xモデルへと転換する中で、
社会・環境に関する課題解決を通じた
持続的な成長をめざしています。

P.09

連結及び セグメント別の 業績概況

(2018年3月期 上半期)

P.11

NTTグループの 動き

NTTグループの2017年4月～
2017年9月の主なニュースを
ご紹介します。

P.13

イベントレポート

日経IR・投資フェア2017
(2017年8月25日・26日開催)のご紹介とともに、
NTT武蔵野研究開発センタ見学会
(2018年3月28日開催予定)について
ご案内しています。

P.14



【トップメッセージ】

新たな価値創造をめざして B2B2Xモデルへの取り組みを進めていきます

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに「株主通信 NTT is (2017年12月号)」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

NTTグループは2015年5月に公表した中期経営戦略「新たなステージをめざして2.0」に基づき、皆さまに選ばれ続ける「バリューパートナー」として、企業価値の持続的向上に努めております。

2018年3月期上半期は、固定通信事業においては、「光コラボレーションモデル」の取り組みを引き続き推進した結果、同モデルによる契約数が1,000万契約を突破し、光アクセスサービスの契約数2,039万契約のうち約半数を占めることとなりました。

移動通信事業においては、「docomo with」などの料金プランの拡充や「ドコモ光」の販売推進、スマートライフ領域のサービスの充実などにより、顧客基盤の強化を進めました。

グローバルビジネスにおいては、NTTコミュニケーションズグループのデータセンター事業の拡大やDimension Dataの利益回復に取り組みました。

これらの取り組みにより、2018年3月期上半期の営業収益は5兆6,648億円、営業利益は9,752億円と、増収増益の決算となりました。引き続き通期業績予想(営業収益11兆7,500億円、営業利益1兆5,900億円)の達成をめざし取り組んでいきます。

また、B2B2Xモデルへの上半期の取り組みについては、ネットワークにつながるコネクティッドカーや、サッカー観戦に新たな体験をもたらすスマートスタジアム化の拡大など、様々なパートナーとのコラボレーションを進めてまいりました。

引き続き、NTTグループの成長力の源泉となる研究開発(R&D)により競争力のある技術を創造しつつ、B2B2Xモデルの推進により社会的課題の解決やライフスタイルの変革といった新たな価値創造をめざしていきます。

最後に、株主還元についてご説明いたします。6月号でもお伝えしましたとおり、2018年3月期は1株当たりの年間配当額を対前年30円増額の150円とする予定です。引き続き安定性・継続性に配慮しつつ増配に努めてまいります。また、自己株式取得は、2017年9月の取締役会にて、1,500億円を上限として2018年3月までに取得することを決議いたしました。株主還元については今後も充実を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

うの うら ひろ お
代表取締役社長 **鵜浦博夫**

R&Dによる B2B2Xの価値創造

中期経営戦略「新たなステージをめざして2.0」の三本柱の一つであるB2B2Xモデルへの転換。他分野の事業者や自治体とのコラボレーションを通じてB2B2Xモデルを実現する上で、不可欠なのがR&D(研究開発)の力です。業界・分野ごとに異なる多様なニーズに応え、社会的課題の解決やライフスタイルの変革といった新たな価値の創出を通じて、NTTグループの成長を担うR&D活動をご紹介します。

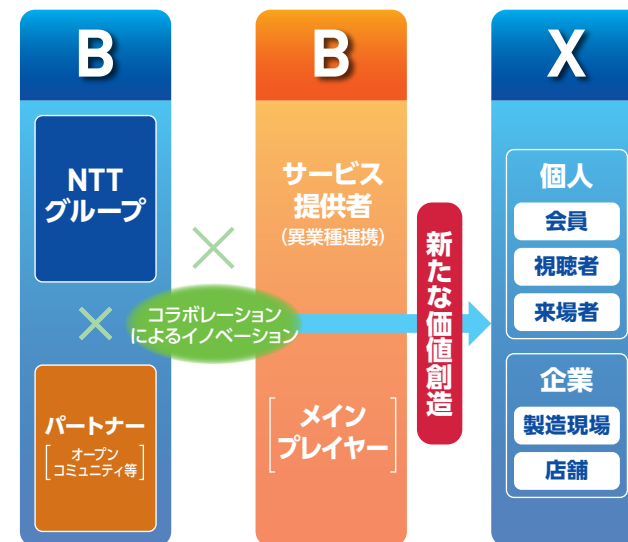
NTTのR&D

NTTのR&Dは、「世界をリードする技術を生み出し、社会や産業、学術の発展に寄与していく」という理念のもと、3つの総合研究所において約2,500人の研究者により基礎研究からグループ各社のビジネス展開を支える研究開発まで、幅広く多様な研究を行っています。激変するICT分野では、短期の研究開発と中長期の研究開発のバランスを取りながら進めることが重要です。短期の研究開発は、常にマーケットを意識したスピーディな展開を行い、一方、中長期の研究開発は、将来の事業や社会へのインパクトを見極め、信念を持って技術を極めることにより、世界をリードする技術を生み出しています。

R&Dが支えるB2B2Xにおける 新たな価値創出

NTTが中期経営戦略で掲げるB2B2Xモデルを推進するにあたり、イノベーションが不可欠であり、R&Dはエンジンの役割を果たします。NTTは、多様なプレイヤーが参画し、サービス利用者の選択肢が広がる中で、自らが選ばれ続けるため、様々なパートナーの皆さまと一緒にコラボレーションを進め、新たな価値創出を推進する技術の開発に取り組んでいます。ここでは3つの切り口から、NTTのR&Dが創出した新しい価値の事例をご紹介します。

B2B2Xモデル拡大とR&Dの役割



①新しいビジネス・価値の創造

▶「コネクティッドカー」の実現を支えるコラボレーション

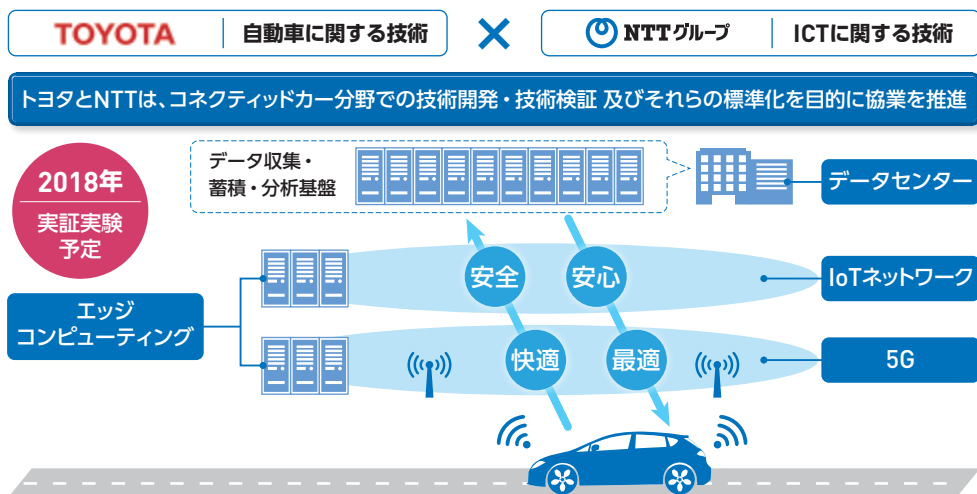
ICT端末としての機能を有する自動車がネットワークにつながることで多様なサービスの創出が期待される「コネクティッドカー」。NTTは通信事業者として、「IoT(モノのインターネット)」が社会的に注目されるずっと前から、データセンターなどの最適配置やアプリケーションの制御などに関する技術開発を推進してきました。その中で培われた「エッジコンピューティング」といったNTTが保有する「ICTに関する技術」とトヨタ自動車株式会社が保有する「自動車に関する技術」を組み合わせ、将来の持続可能なスマートモビリティ社会の実現をめざしていきます。

▶健康長寿社会の実現に向けたコラボレーション

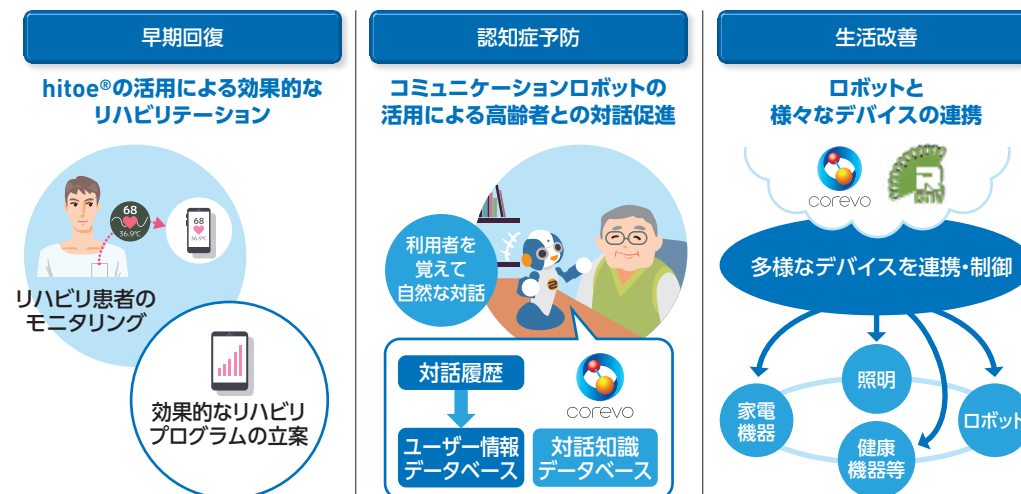
健康長寿社会の実現に向けては、東レ株式会社と共同開発した新しい機能素材「hitoe®」や、NTTグループのAI(人工知能)関連技術「corevo®(コレボ)」による貢献が期待されます。繊維でありながらも生体情報の計測を行うことができるhitoe®の技術は、医療の現場においては、その安全性と信頼性から、一般医療機器として登録されています。また、リハビリテーションの現場においては、患者にリハビリ用hitoe®ウェアを着用いただき、心拍数や運動中の姿勢などのデータをhitoe®が捉え、その情報をもとに効果的なリハビリプログラムを提供する共同実験を藤田保健衛生大学と進めています。

また、電話事業を通じて蓄積した音声に関する膨大な技術は、コミュニケーションロボットにも活用されています。雑音を取り除くことで音声認識性能の向上をめざす音声強調技術に加え、ユーザーの発話意図を理解し自然な対話を実現する自然言語処理技術などが、ロボットには難易度の高い「雑談対話」を可能にし、高齢者との対話を促進することで認知症の予防に貢献することが期待されます。さらに、ロボットと家電機器や健康機器などの他のICT機器を組み合わせるロボットサービスの高度化を可能にする「R-env:連舞®」を開発するなど、様々な生活改善の実現をめざした取り組みを進めています。

NTTグループの技術が支えるコネクティッドカー



健康長寿社会の実現



▶「おもてなし」を支えるコラボレーション

訪日外国人、高齢者ならびに障がいのある方など、誰もがストレスなく過ごせるバリアフリーの世界をICTで実現する「おもてなし」においてもNTTの技術が活躍しています。羽田空港では、スマートフォンをかざすだけで知りたい情報が利用者の母国語で提示される「かざして案内™」サービスを実証実験しています。また、おにぎりなどコンビニエンスストアの陳列棚の商品にスマートフォンをかざすだけで、お客さまが商品を手にとることなく必要な情報を得られるシステムの共同実験を株式会社セブン&アイ・ホールディングスと開始するなど、「かざして」情報提供を行う取り組みを推進しています。

このほか、遠隔地でもあたかもその場にいるよ

うな臨場感を体感できるイマーシブテレプレゼンス技術「Kirari!®」を使って、歌舞伎などの伝統芸能の公演のほか、アーティストの音楽イベント模様などを遠く離れた会場にリアルタイムで伝送し、臨場感高く再現するなど、今まで体験したことのないような新感覚のライブパフォーマンスを通じて、新たな感動をお届けしています。

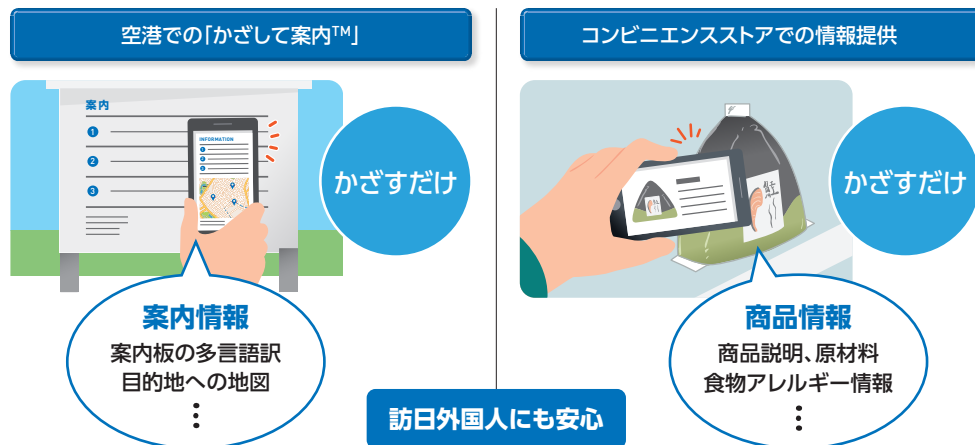
②経営効率化・リスクマネジメント

NTTグループのAI関連技術「corevo®」や新機能素材「hitoe®」は、既存業務の効率化やリスクマネジメントにも活用されています。corevo®の「聞く技術」「聞き分ける技術」「理解する技術」は、雑音下での音声認識や多言語、方言や特殊なイントネーションの識別に加え、日本語特有の多様

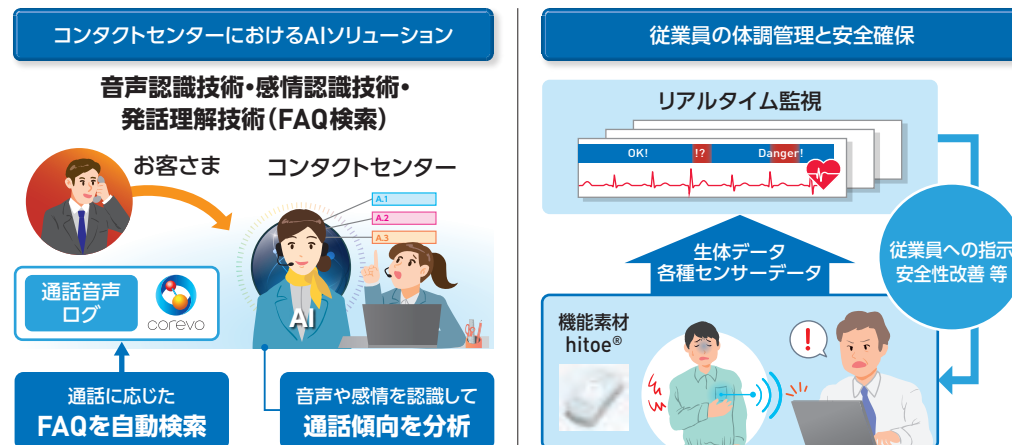
な表現や話者の感情までも理解する能力を備えています。言葉少なく静かに怒っている気持ちもcorevo®はきちんと読み取ることができます。このようなcorevo®の技術が認められて、損害保険ジャパン日本興亜株式会社のコンタクトセンターにcorevo®の音声認識技術を活用した「ForeSight Voice Mining®」というAI音声認識システムを導入いただく予定となっています。

また、安心・安全な業務運営を支援するリスクマネジメントの視点では、hitoe®を作業着に組み込むことで、hitoe®が読み取る生体情報をもとに、夏場の作業現場などの厳しい環境下における作業者の体調管理や安全管理を行うサービスを、東レ株式会社や株式会社大林組と開発しています。

おもてなしに貢献する技術



思考・行動の支援による業務効率化、安心・安全な業務運営の支援



③サステナブルな事業運営を支えるネットワーク

B2B2Xモデルを実現していく上ではネットワークも不可欠です。IoTの進展に伴いさらに多くの「モノ」がつながっていき、社会インフラとしてもネットワークの重要性がより一層増していく一方、投資の効率化や労働人口減少に伴う保守要員の減少への対応なども同時に必要とされており、従来の運用方法からの転換が求められます。NTTでは、サステナブルな運用を構築するために、ネットワーク機能をソフトウェアで効率的に実現する革新的な取り組みを推し進めています。また同時に、ネットワークの開発についても、Google Inc.やFacebook, Inc.などとともにコンソーシアム活動などを推進し、技術の共通化や共同開発による開発・投資コストの削減にも取り組んでいます。

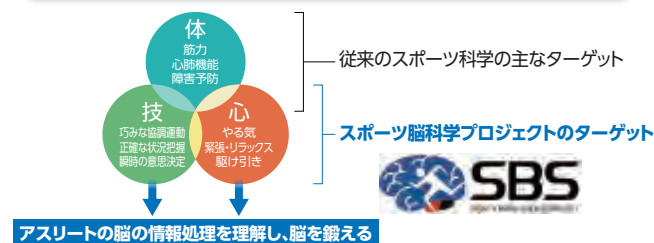
未来に向けたR&D

ここまで応用技術を中心に紹介してきましたが、NTTは基礎研究も重視して研究開発に取り組んでいます。なぜなら、現在様々なAI関連技術をNTTグループが保有できているのは、過去数十年の長い基礎研究・開発の歴史の上に発展しているからです。その観点では、今役立つ技術のみを研究開発するのではなく、5~10年後に役立つ基礎研究にもバランス良く取り組んでいく必要があると考えています。

今現在進めている基礎研究の一つが、光を使った新しい仕組みのコンピュータの研究です。既に従来型のスーパーコンピュータはすばらしい計算速度を誇っていますが、このスーパーコンピュータを使っても解くことが難しい問題があります。例えば、「組み合わせ最適化問題」とされている問題は、通信ネットワークの最適化や創薬などに利用できると期待されています。創薬では、様々な元素の組み合わせで効能などが変わるため、その効能を計算機で予測することで創薬開発の効率を劇的に上げることができます。しかし、構成元素が増えるほど、その組み合わせ方は天文学的に増えてしまうことから、現代コンピュータでは最適な組み合わせを選び出すことは極めて困難でした。こうした新しいコンピュータの登場が、将来、交通渋滞の解消や新薬の開発、さらには最適な生産計画の立案など、様々な社会的課題の解決に役立つことを期待しています。

また、もう一つの基礎研究の事例として、スポーツ脳科学の研究があります。スポーツで重要とさ

アスリートのパフォーマンスの構成要素



れる「心・技・体」のうち、従来のスポーツ科学の研究では主に「体」の部分が注目されていますが、本研究では、科学的に解明されていない部分が多く、脳と密接な関係のある「心・技」に焦点を当てています。優れたアスリートの脳はどのように精神状態を調節し、身体運動を制御しているのか、脳の情報処理を解明することで、勝つための「心」と「技」を支える脳を鍛えることをめざしています。東京六大学野球選手や元プロ野球選手、ソフトボールの日本リーグ選手などの協力を得て、様々な実験に取り組んでいます。例えば、優れた打者の動作を詳細に分析すると、投手の手から球が離れた0.1秒後までに、打者の脳はとるべき身体の動きを判断していることが分かりました。ウェアラブルセンサーなど最先端の情報通信技術を活用しながら、アスリートが持つ潜在的な脳情報処理メカニズムの解明に取り組んでいます。

こうした基礎研究が実際にサービスとなって開花するまでには、何年もの時間がかかります。しかし、こうした研究の中に、将来、社会システムを大きく変えるイノベーションの種が秘められていると考えられています。

NTTでは今後も、事業領域の拡大も含めてNTTグループの成長エンジンとしてR&Dにしっかりと取り組み、更なる企業価値向上へと努めてまいります。

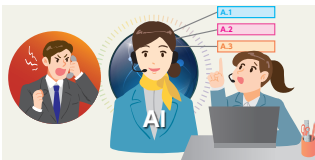
見えるNTT

R&Dが支える新たな価値創出

NTTグループの研究開発が2020とその先の社会に貢献する新たな利用シーンを「見える化」します。

AIによる窓口業務の効率化・対応品質向上

窓口でのお客さま対応をAIがサポート。お客さまの要望を認識・理解し、店員に回答案を提示することで業務効率化・対応品質向上。



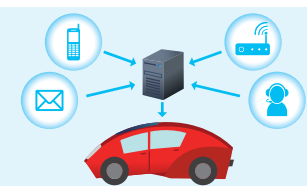
Kirari!®による未来型店舗

遠隔地にいる経験豊富なスタッフが、あたかも目の前にいるかのような立体映像で遠隔対応し、店頭や自宅などを問わずどこでもきめ細かなサービスを展開。



コネクティッドカーの実現

クルマから得られるビッグデータを活用することによって、事故や渋滞といった社会が直面している様々な課題の解決などに貢献。



人の流れの把握によるエリアマネジメントの最適化

商業施設などでの人の流れの時間・場所ごとの密度に応じた空調制御やエレベーター運行などの最適化。



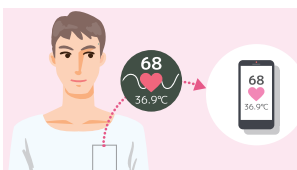
渋滞予測による交通マネジメント

交通管理用のカメラや道路のセンサーなどから分析した渋滞予測を信号制御に反映し、渋滞緩和へ活用。



hitoe®による状態管理

リハビリ患者の心拍数などをモニタリングすることで、より効果的なリハビリプログラムを立案。



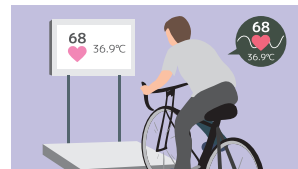
コミュニケーションロボットの活用

コミュニケーションロボットにより高齢者の会話を促進。さらに、呼びかけにより、食事などの高齢者の活動を促すことで、高齢者の生活全般の改善に寄与。



hitoe®によるトレーニング

生体情報を記録することで、残存体力や筋疲労の状況などを提示し、より精密なトレーニング指標を提供。



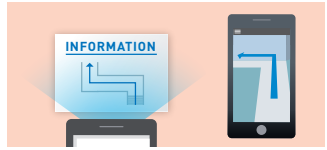
コンビニエンスストアで商品にスマホをかざして情報表示

おにぎりなどコンビニエンスストア陳列棚の商品にスマートフォンをかざすだけで、お客さまが商品を手にとることなく食物アレルギーなどの商品情報を確認。



人や状況に応じた きめ細かなナビゲーション

街中や駅などの公共施設において、車いすなどが通しやすいバリアフリー経路や混雑を回避する最適順路をご案内。



空港や駅で「かざして案内™」

海外からのお客さまが、スマートフォンのカメラなどを看板にかざすだけで、母国語で交通情報などを閲覧可能に。立体地図やルートなども分かりやすく提供。



多様な機械を連携させた 工場のスマート化

工場内の様々な製造機械の動作状況を集中モニタリング。機械学習を通じた不良品や故障の検知により更なる生産性の向上と効率化が可能に。



hitoe®による働く人の見守り

建設現場や工場の作業員、長距離バスのドライバーなどの姿勢や疲労度などをリアルタイムにモニタリング。作業の安全管理や健康状態管理などに貢献。



競技や公演をまるごと リアルタイムに届け感動を共有

スポーツ競技やエンターテインメントの公演などを遠隔地へリアルタイムに伝送。臨場感高く再現し、感動をリアルタイムに共有。



タクシーの需要を予測

AIで需要予測を行い、高需要とされた地域にタクシーを配車。利用者の待ち時間短縮や突発的な需要への対応が可能に。



重要なインフラなどの 制御システムの安心・安全な運用

システムの継続稼働が求められる火力発電設備や化学プラントなどへの未知のサイバー攻撃に対するリアルタイムな異常検知や対処が可能。



船舶運用の効率化

船上で収集した各種データを迅速に活用。船と陸上のセンターでのデータなどの共有を通じて、より高度な船舶の運航と保守管理などの取り組みを加速。



NTTグループの 社会・環境への取り組み

Q.1 具体的にどのような課題がありますか？

「情報セキュリティ・個人情報保護の強化」、「環境負荷の低減」、「多様な人材の活躍に向けた取り組み」などCSR重点活動項目(18項目)を定めて取り組みを進めています。

様々なICTサービスの提供と密接に関係する社会・環境に関する重要課題を特定し、これらに適切に対処することで、中長期的な事業リスクの最小化に努めるとともに、事業活動を通じてこれら課題解決に貢献することにより、持続的な企業価値向上をめざしています。

主な課題	対応するSDGsの項目
情報セキュリティ・個人情報保護の強化	9 産業と技術革新の基盤をつくろう、11 持続可能な都市とコミュニティ
環境負荷の低減	2 気候変動に具体的な対策を、6 安全な水とトイレを世界中に、7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに、12 つくばる責任、13 気候変動に具体的な対策を、14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさを守ろう
多様な人材の活躍に向けた取り組み	5 ジェンダー平等を促進しよう、8 働きがいも経済成長も、10 人や国の不平等をなくそう

NTTグループは、「NTTグループCSR憲章」を基本指針として、社会・環境に関する課題の解決を通じた持続的な成長の実現に努めています。国連総会において「持続可能な開発目標(SDGs)」が決議されるなど、持続可能な社会の実現に向けた動きがグローバルに活発化しています。

NTTグループは、事業領域をグローバル、B2B2Xモデルへと転換する中、このような動きを踏まえて「NTTグループCSR憲章」を改定するとともに、SDGsに対する賛同を表明するなど、積極的な取り組みを進めています。



Q.2 NTTグループの情報セキュリティを守るためにどのような取り組みを行っていますか？

NTT研究所において研究開発に取り組むほか、セキュリティマネジメント体制の強化やセキュリティ人材の育成を推進するなど、セキュリティを強化するための取り組みを推進しています。

NTTグループは、グループ内のセキュリティ人材育成強化のため、人材タイプや人材レベルに応じた人材育成施策をグループ各社で推進しています。加えて、産業界の円滑な人材育成を目的として発足した「産業横断サイバーセキュリティ人材育成検討会」に参加するほか、早稲田大学に寄附講座を設立するなど、産業界横断や産学連携の様々な取り組みも推進し、国レベルでの人材育成にも貢献しています。



2017年4月現在のセキュリティ人材認定数

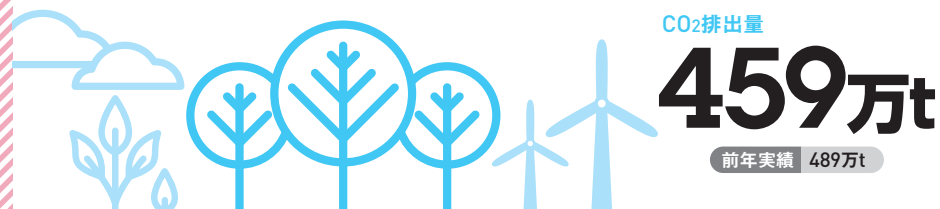
3.1万人

前年実績 2.0万人

Q.3 環境負荷の低減のために どのように取り組んでいますか？

データセンターや通信設備の省エネルギー化などに努めるとともに、ICTサービスや最先端技術の提供を通じて、社会全体からの環境負荷低減への貢献を推進しています。

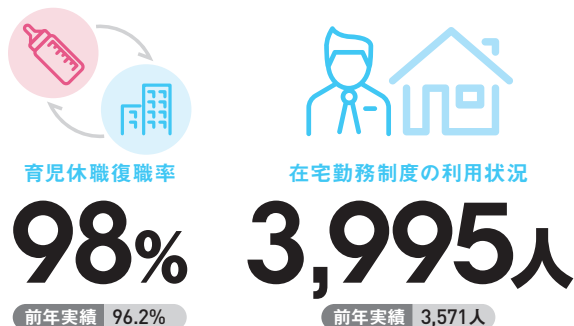
「NTTグループ環境宣言」のもと、NTTグループの環境に関する重点課題である「気候変動」、「エネルギー」、「資源」及び「生態系」について取り組みを進めています。特に気候変動に対しては、ICTサービス提供のために必要な電力の消費を効率化することでCO₂排出量削減に努めるとともに、省エネルギー化に資するICTサービスや最先端技術を提供することで、社会全体のCO₂排出量削減にも貢献しています。



Q.5 働き方改革に取り組んでいますか？

社員一人ひとりが従来型の働き方から脱却し、より効率的な働き方へとシフトすることにより、働き方改革を推進しています。

NTTグループの全経営者・全社員により「働き方改革宣言」を行い、ビジネスパートナーとともに業務プロセス全体の改善を図りながら、心身の健康確保・個々人の変革に向けた各種取り組みを推進しています。在宅勤務を含むテレワーク、フレックスタイム制度などの積極活用や、有給休暇の取得奨励、育児・介護制度の活用促進など、効率的かつ柔軟な働き方をめざして取り組みを進めています。

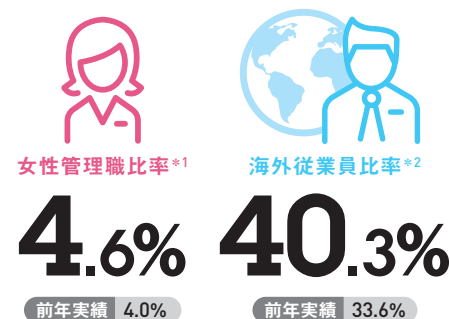


※NTTグループ国内主要会社(事業分担会社含む)

Q.4 多様な人材の活躍に向けて どのように取り組んでいますか？

ダイバーシティ・マネジメントを重要な経営戦略と位置づけ、性別や年齢、人種、国籍、障がいの有無、性的指向、性自認などにかかわらず、多様な人材が活躍できる職場づくりに取り組んでいます。

国内外の様々なプレイヤーの参入やサービスなどの多様化・高度化が急速に進むICT市場の変化に対応していくため、多様な人材が活躍できる仕組みづくりが不可欠と考えています。女性活躍推進や外国人採用に向けた取り組みのほか、LGBT等性的マイノリティに対する制度の整備や、障がい者雇用機会の拡大などにも努めています。



*1 2017年3月31日現在のNTTと国内の直接帰属会社及び各社の事業分担会社(計41社)

*2 2017年3月31日現在のNTTグループ連結944社の概算人数

NTTグループの社会・環境に関するより詳細な取り組みについては、「NTTアニュアルレポート2017」、「NTTグループサステナビリティレポート2017」をご参照ください。

NTTグループ
アニュアルレポートのダウンロード

<http://www.ntt.co.jp/ir/library/annual/index.html>



NTTグループ
サステナビリティレポートのダウンロード

<http://www.ntt.co.jp/csr/report.html>



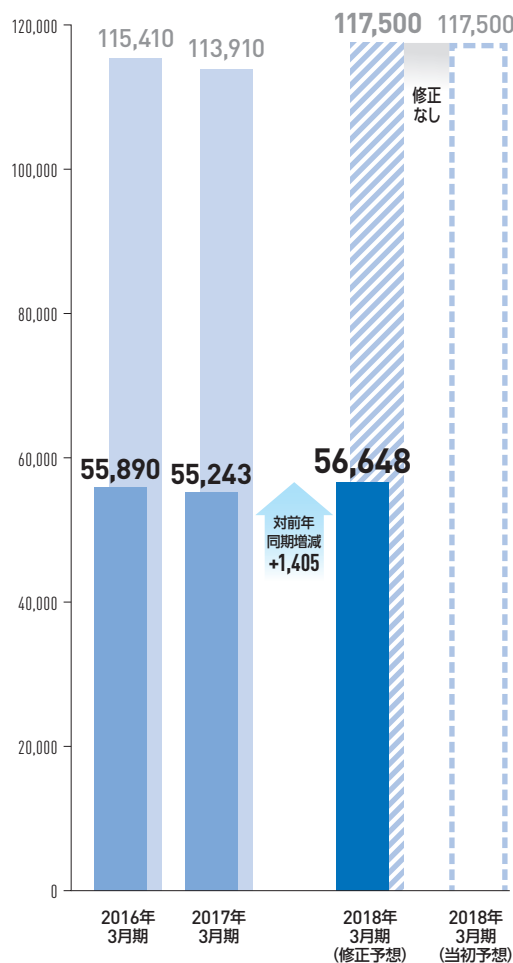
連結業績概況と通期業績予想

2018年3月期 上半期実績

- 営業収益は、Dell services 部門の譲り受けによる連結拡大などにより増収
- 営業利益は、移動通信セグメントが減益となる一方、長距離・国際通信セグメントやデータ通信セグメントなどの増収により増益

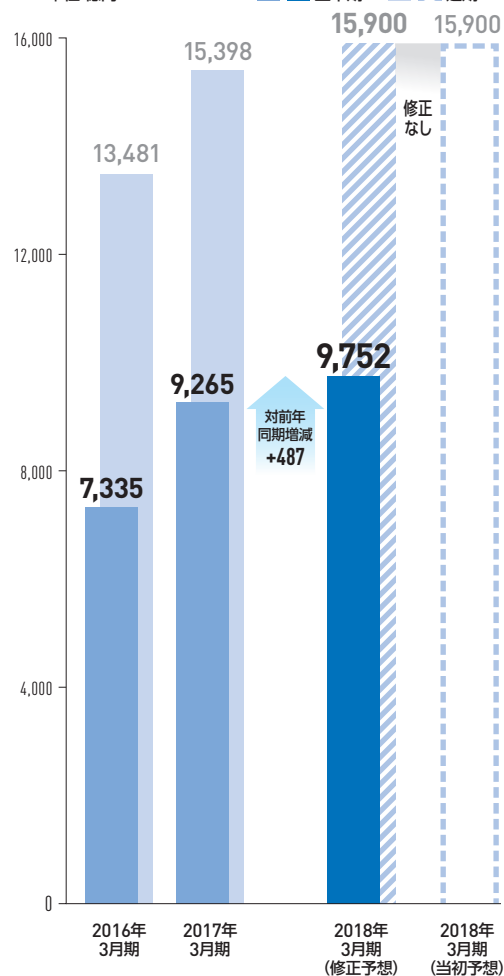
営業収益

単位:億円



営業利益

単位:億円

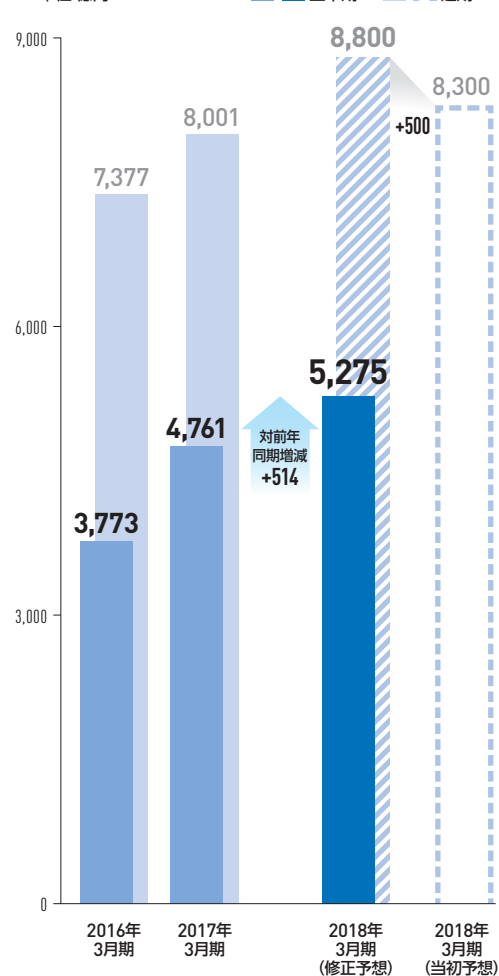


2018年3月期 通期業績予想 (2017年11月10日 修正)

- 営業収益、営業利益は当初業績予想と同
- 当期純利益は、Tata Sons Limitedからの仲裁裁定金受領により上方修正

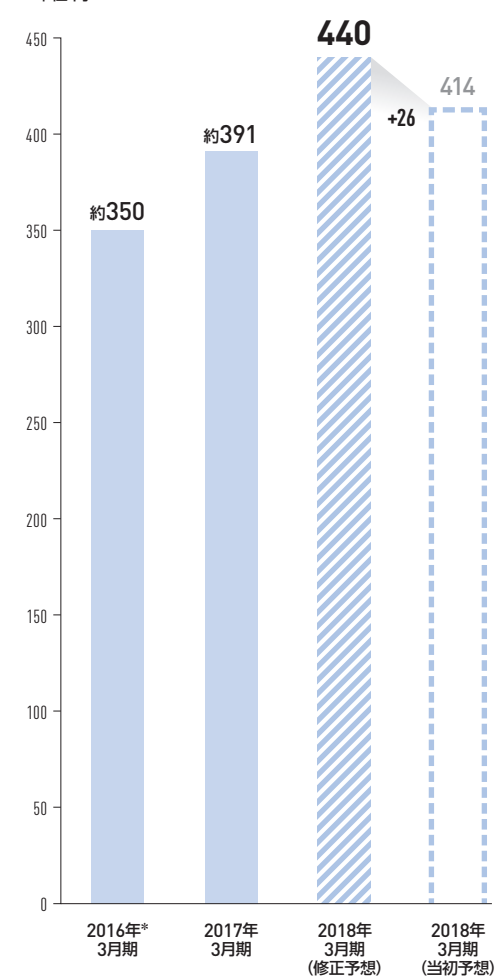
当期純利益

単位:億円



EPS (1株当たり当期純利益)

単位:円

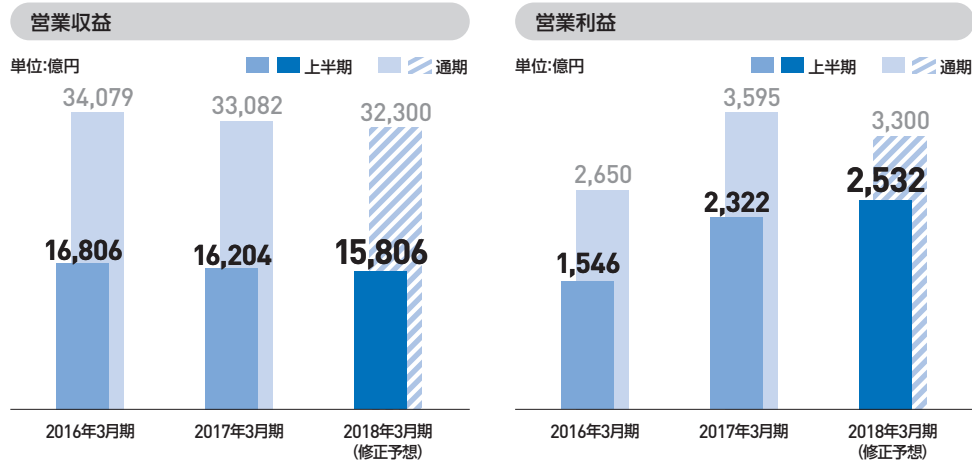


*2015年7月1日を効力発生日とした株式分割後(普通株式1株を2株に分割)の値に調整

セグメント別業績概況

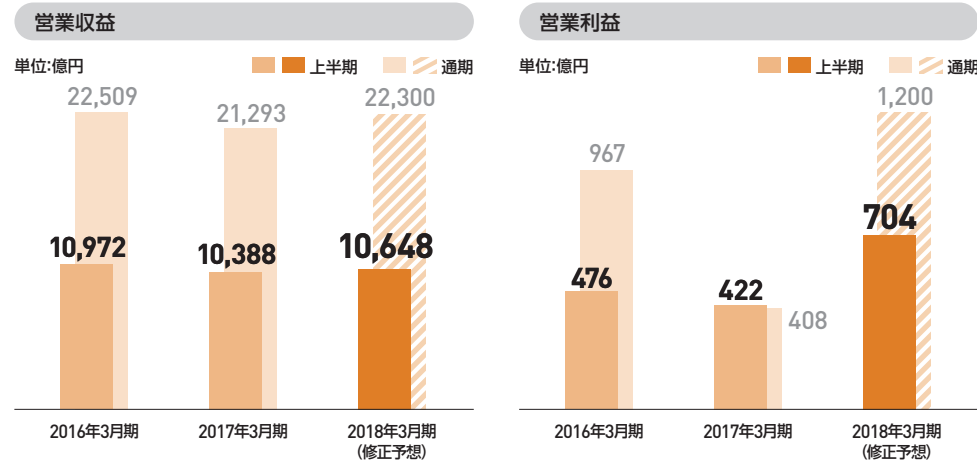
地域通信セグメント

- 光コラボレーションモデルの拡大や、減価償却費の減少などにより増益



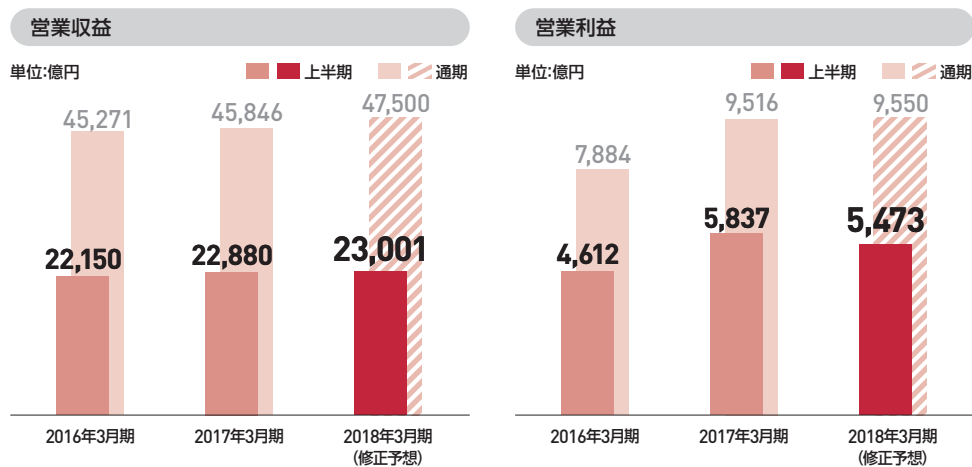
長距離・国際通信セグメント

- 海外データセンター事業の拡大などにより増収増益



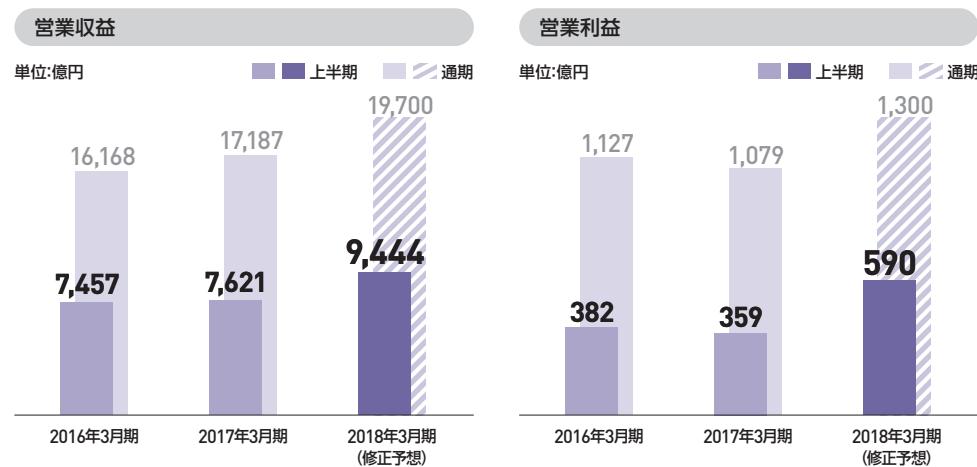
移動通信セグメント

- モバイル通信サービスや光通信サービス(ドコモ光)の推進により増収



データ通信セグメント

- Dell services 部門の譲り受けによる連結拡大や国内ビジネス規模拡大などにより増収増益



NTTグループの動き

2017年4月～2017年9月のNTTグループの主なニュース

4月
April

19 世界最大級の「テキサス ダラス 1 (TX1) データセンター」を提供開始



20 国内初「hitoe®」を活用したレーシングドライバーの生体情報を計測する共同実証実験を開始
～ドライバーの生体情報とレーシングカーの情報を活用し、より高いパフォーマンスを実現～



PICK UP! 2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権において、生体情報の連続計測が可能な機能素材「hitoe®」の技術を用いたアンダーシャツをレーシングドライバーが着用し、レース環境下で心拍数などの生体情報を計測。さらにレーシングカーの走行情報や走行状態の映像とあわせて分析し、ドライバーのパフォーマンス向上へと役立てます。



5月
May

23 畜産農家の経済的損失防止に向けた畜産IoTに関する共同実証実験の開始
～Wi-Fiと画像データの解析技術を活用し、肉用牛の起立不可による事故死を防止～



PICK UP! 牛舎に設置した赤外線モーションセンサーで取得した画像データをWi-Fi経由で収集し、クラウドに蓄積された画像データから肉用牛の起立不可状態を解析、転倒検知時に自動で畜産農家に通知します。この取り組みにより毎年1～2%発生する肉用牛の起立不可による事故死を防止します。



24 月々のご利用料金からずっと1,500円割引料金プラン「docomo with」を提供
～端末を長くご利用いただくほど、おトクに～



6月
June

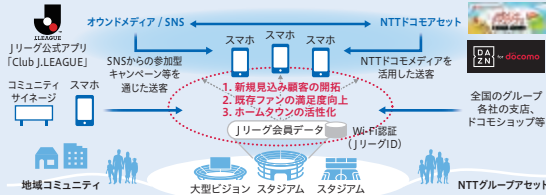
21 NTTコミュニケーションズのAIエンジン「COTOHA®」が「MM総研大賞2017」におけるAI分野で最優秀賞を受賞



30 Jリーグ、NTTドコモ「トップパートナー契約」、NTTグループ「オフィシャルテクノロジーパートナー契約」の締結
～Jリーグ・クラブチームと連携し、デジタルマーケティングの深化やホームタウン活性化へ貢献～



PICK UP! 「スマートスタジアム事業」など、これまでのJリーグとの協業関係を、さらに深化させ、新たなファン層の開拓やホームタウンの活性化など、スポーツ産業の発展に引き続き貢献していきます。



7月
July

19 建設生産プロセス全体をつなぐ新プラットフォーム「LANDLOG」の共同企画・運用を決定
～安全で生産性の高い未来の建設現場の実現～



PICK UP! コマツ、NTTドコモ、SAPジャパン、オプティムは、建設生産プロセス全体のデータ収集と一元管理するプラットフォームを建設事業者向けに提供開始することをめざし、4社共同で企画・運用することに合意しました。建設現場を支える多くのユーザーに利用いただくことで、安全で生産性の高い未来の現場実現を加速していきます。



21 「シーサイドももち花火ファンタジアFUKUOKA」のパブリックビューイングを熊本県益城町で実施
～NTT開発の「超ワイド映像合成技術」で、イベント会場にいるかのような高臨場感ライブ中継を実現～



8月
August

8 羽田空港の情報ユニバーサルデザインの公開実証実験を開始
～日本の玄関を起点とした世界最高のおもてなしが実証フェーズへ～



PICK UP! 空港をご利用いただくお客さまに実際にご利用いただく公開実証実験を行い、「かざして案内™」などにおける各種技術の有用性を見極め、空港内外での有益なツールとしてのサービス化をめざしていきます。



10 自動車ビッグデータ向けネットワーク基盤とコンピューティング基盤のためのコンソーシアムを創設



9月
September

19 船舶IoTの次世代プラットフォームに関する日本郵船グループとの共同実験の開始と更なる連携の強化



25 NTTとトヨタ、生活支援ロボット普及に向けた共同研究を開始
～人とロボットの共生社会をめざして～



PICK UP! NTTの保有するAI技術「corevo®」を組み込んだコミュニケーションロボットや、トヨタが開発を進める生活支援ロボットHSRなどを中心に、両社の技術・ノウハウを組み合わせ、人の行動を先回りしてサポートすることができる技術開発を推進し、人の役に立ち、人と共生するパートナーロボットの実用化促進と普及をめざします。





Event Report

日経IR・投資フェア2017に出展

開催日 2017年8月25日(金)、26日(土)

場所 東京ビッグサイト

2017年8月25日(金)、26日(土)、東京ビッグサイトにて開催された、「日経IR・投資フェア2017」に出展しました。

満席となった廣井取締役財務部門長による説明会や、約2,000人の個人投資家の皆さまにご訪問いただいたブース説明会において、中期経営戦略「新たなステージをめざして2.0」に基づく取り組みや株主還元などについてご説明し、皆さまからもご質問を多数いただくなど、貴重なコミュニケーションの場になりました。



説明会の様子



ブースでの様子

Event Report

施設見学会のお知らせ

見学場所 NTT武蔵野研究開発センタ(東京都武蔵野市緑町3-9-11)

開催日時 2018年3月28日(水)
①午前の部(9時30分～12時30分)②午後の部(14時00分～17時00分)

募集人数 100名(午前の部、午後の部ともに50名)
*ご応募多数の場合は抽選となります。当選発表は当選者へのご発送をもって代えさせていただきます。

応募条件 当社株式を100株(1単元)以上ご所有 かつ 配当金受領方法が口座振込みの株主ご本人さま(2017年12月31日時点で弊社にて確認が取れた方)
*より多くの株主さまにご見学いただくため、ご参加は当選者ご本人のみとさせていただきます。
*証券会社へ配当金受領方法の変更手続きをされる場合は、一定の期間が必要ですので、余裕をもった手続きをお願いいたします。

参加費用 無料
*ただし、集合・解散場所(JR三鷹駅)までの往復交通費及び宿泊費等は参加者さまのご負担でお願いいたします。

その他 ご見学は2時間程度の徒歩移動、階段の昇り降りがございます。あらかじめご了承ください。
諸般の事情(天候等)により内容が変更または中止となる場合がございます。
集合・解散場所(JR三鷹駅)には、当社が用意できる駐車場はございません。
本見学会にて当社が撮影した写真は、刊行物、Webページ等に掲載させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

応募方法 右記ホームページよりご応募ください。(はがきでの応募も可能です)

応募締切 2018年1月31日(水) 必着

ホームページ申し込み

http://www.ntt.co.jp/ir/private_investor/business/facilities/tour2017.html



応募はがき記入要領

切手	143-8799	大森郵便局郵便私書箱第10号 三井住友信託銀行 証券代行部 気付	①氏名 ②株主番号 ③住所 ④電話番号 ⑤性別(任意) ⑥年齢(任意) ⑦参加希望枠(午前/午後)
	NTT施設見学会係行		

*ご記入いただきました個人情報は、本見学会の実施に関するご案内の目的のみで使用させていただきます。
*応募はがき、郵送料などについては株主さまのご負担でお願いいたします。





株主通信

2017 12 (December)

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。このため、株主さまから、お取引の証券会社などへマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主さまのマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

主な支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求などの株式の譲渡に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

証券口座にて株式を管理されている株主さま

お取引の証券会社までお問い合わせください。

証券会社とのお取引がない株主さま
下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。

三井住友信託銀行 証券代行部

0120-584-400

株主インフォメーション



住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定について

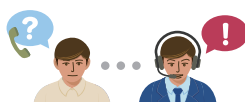
証券会社の口座に当社株式が記録されている株主さま

➔ お取引先の証券会社へお問い合わせください。

特別口座に当社株式が記録されている株主さま

➔ 当社特別口座管理機関の三井住友信託銀行へお問い合わせください。

- 住所・氏名の表記について... 住所および氏名などの文字のうち、証券保管振替機構が指定していない漢字などが含まれている場合には、その全部または一部を証券保管振替機構が指定した文字に置き換えさせていただくことがございますのでご了承ください。
- 未払配当金の支払について... まだ受け取られていない配当金がある場合は、お早めに三井住友信託銀行にお問い合わせください。



株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

■ NTT株主さま専用電話

0120-584-400

■ 代表電話

0120-782-031

■ 株主・投資家の皆さま向けホームページ

<http://www.ntt.co.jp/ir/>

その他の各種お問い合わせ先

※ NTT東日本・NTT西日本

「電話サービス」に関するお申し込み・お問い合わせは

116 (局番なし)

午前9時～午後5時 年中無休(ただし年末年始を除く)

「ブロードバンドサービス」に関するお申し込み・お問い合わせは

0120-116-116

午前9時～午後5時 年中無休(ただし年末年始を除く)

※ NTTコミュニケーションズ

電話・インターネットのサービスに関するお申し込み・お問い合わせは

コール・コール
0120-506-506

午前10時～午後7時(日曜・祝日・年末年始を除く)

※ NTTドコモ

ドコモの携帯電話からの場合

151 (局番なし)

(一般電話などからはご利用になれません。)

一般電話などからの場合

0120-800-000

午前9時～午後8時 年中無休



証券コード:9432



この冊子は環境にやさしい植物油インキとFSC®森林認証紙を使用しています。

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

日本電信電話株式会社